



## IFALPA DG Committee Meeting 出席報告③ (2013.10.1-3, Almaty, Kazakhstan)

### 4. その他会議報告

EU内における会議として **DGELG** (DG European Liaison Group) があります。これはEU内での危険物に特化した会議体です。EU内は多くの国々があるため、危険物輸送は大変重要なテーマであり、議論内容は複雑で多岐に渡ります。また、各国それぞれ危険物輸送に関して自国の規定類を設けており、国をまたぐ危険物輸送は大変複雑な取り決めとなっています。

その中で、近年議論が盛んに行われている議題の1つに、英国国内の国内郵便に関して、少量かつ比較的危険性の低い危険物を ICAO で定められたルールの適応外にするといった提案です。つまり、国内郵便に限り、必要なラベル貼付や、PIC への NOTOC での報告などを全て省略するという意味です。過去にもこの様な規制緩和の提案は挙がりましたが、米国の UPS (United Postal Service) などの猛反対を受け却下されています。IFALPA もこの様な提案には強く反対しており、IFALPA から Position Paper などを発効する方向性で進めています。この英国に関する提案の様に、国内郵便に限った規制緩和の進行は、将来的に国際郵便に対して規制緩和が及んでくるのは必至です。そのため、慎重な議論が求められます。



### 5. UAE ドバイ空港近郊におけるUPS機事故の最終報告書

2010年9月3日、UAE (アラブ首長国連邦) ドバイ空港近郊で発生した、UPS (United Parcel Service) B747 貨物機墜落事故の最終報告書が、2013年7月に発表されました。報告書の中で DG Committee に関連した主な内容は以下の通りです。

- ① 搭載貨物を風雨から守るための防水シートによって、発生した火災の煙を閉じ込めてしまった結果、火災報知器は適切に作動しなかった
- ② パイロットが実施したチェックリストは、火災を鎮火させる項目ではなく、煙を排出させる項目を実施すれば効果的だったと考えられる



リチウムメタルバッテリー



リチウムイオンバッテリー

## 6. カザフスタンALPAからの報告

今回の Committee を主催したカザフスタン ALPA のメンバーが所属する Air Astana＝カザフスタン国際航空で実際に起きた事例について、大変興味深い報告をご紹介します。

アルマトイ発シムケント行の Air Astana 機において、貨物室から火災が発生したために緊急着陸を行いました（飛行距離は東京-大阪とほぼ同距離）。適切な対応によって負傷者はありませんでした。その後の当局による調査の結果、火災の原因は受託手荷物内に収納されていたバッグ内に、常備薬を複数入れたポーチからの出火であることが判明しました。具体的には、同一ポーチに収納されていた常備薬のうち、過マンガン酸カリウムを含んだ薬とグリセリンが化学反応し、火災を引き起こしたという極めて珍しいケースです。

この調査結果を受けて、Air Astana では手荷物受託時における危険物有無の搭乗旅客への確認徹底や危険物輸送の安全啓蒙活動、またウェブチェックイン時における対策の強化を図っていることが紹介されました。

## 7. 火災検知システムについて

上空での航空機火災で最も重要なのは、いかに早く検知し、鎮火または制御して緊急着陸を行う時間を確保するかです。貨物機において、煙探知機や火災探知機が装備されている貨物室と、Main Deck の様に装備されていない貨物室では大きく状況が異なります。そこで表面温度を監視する「サーモカメラ」の装備や、貨物室の監視カメラの設置などが議論されました。引き続き、ADO Committee と協力しながら議論を進めていくことになりました。

(出席報告ニュース④へ続く)